

14 キャリア教育(体系的・系統的なキャリア教育)

第3期プラン 1-(4)-ア

複雑で予測困難な社会に対応できるよう、児童生徒一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送るための基盤となる能力について、小学校から高等学校までの各学校段階間のつながりを重視しながら、意図的・継続的に育成を図る。また、進路指導においては、自らの意思と責任で主体的に進路を選択して決定できる能力や態度を育成する。

令和4年度 重点実践事項

- 兵庫版「キャリア・パスポート」等の積極的な活用による小中高一貫した取組の推進
- 社会の変化に対応し、生徒の能力・適性等、個に応じた進路指導の充実

実践目標 1 社会的自立に必要な態度や能力を育てる

① キャリア教育推進体制の整備 小中高特

全ての教職員の共通認識のもと、特別活動を要としつつ教育活動全体を通してキャリア教育に取り組む。また、学校におけるキャリア教育の目標を明確にし、兵庫版「キャリア・パスポート」による小中高の接続を踏まえ、全体計画を作成するなど、校内の体系的・系統的なキャリア教育を組織的に推進する。

重点! ② 基礎的・汎用的能力の育成 小中高特



自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義・役割等を理解させ、「キャリアプランニング能力」「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」等、社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を育成するため、兵庫版「キャリア・パスポート」やキャリアノート、キャリア教育指導資料等を積極的に活用して、発達段階に応じた小学校から高等学校までの継続的な指導を、家庭や地域と連携して行う。



耕運機を使った作業学習
(県立北はりま特別支援学校)

実践目標 2 主体的な進路選択を支援する

① 個に応じたガイダンス機能の実施 中高特

生徒の能力・適性、興味・関心、障害の状態や将来の進路希望等に基づき、保護者との連携のもと、個に応じて適切に指導する。特に、中学校では、業者テストによる偏差値等に依存することなく、個々の能力・適性・実態を踏まえた進路指導を行う。

重点! ② 進路選択に係る情報提供 中高特



中学校等は、各高等学校の特色等の情報収集に努め、生徒・保護者に対し、オープン・ハイスクール等への参加や学校紹介動画等の視聴の促進による積極的な情報提供を行う。

高等学校等は、就業・就労先の情報収集・新規開拓や大学等の特色の把握に努め、生徒・保護者への積極的な情報提供を行う。



体験を通してものづくりを学ぶ生徒
(加東市立社中学校)

「基礎的・汎用的能力」とは

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる力でキャリア教育で育成すべき4つの能力のこと。

- ・「人間関係形成・社会形成能力」
- ・「自己理解・自己管理能力」
- ・「課題対応能力」
- ・「キャリアプランニング能力」



「キャリア教育の手引き」(H23 文科省より)

関係資料

※関係資料一覧より一部抜粋
※一覧はP67のQRコードから閲覧可

- 9年間の学びをつなぐキャリア教育実践事例集 (R3 県教委)
- 特別活動を要としたキャリア教育指導の手引き (R1 県教委)
- 兵庫版「キャリア・パスポート」 (R1 県教委)
- ひょうごキャリア教育指導事例集 (H29 県教委)

施策解説P.65